

高齢者の脳に良好な刺激を与える椅子の検討（概要）

令和6年8月

日本医療大学

1. 目的

70歳代以降の高齢者は、リラクゼーション指標の一つである脳波の α 波が減少することが知られている。つまり高齢者は、生理学的にリラクゼーションが取りにくい状況となっており、ゆったりとした日常になっていないことが示唆されている。我々が開発してきたスウィングスライド機構は、前後に揺れを発生させることが可能である。この機構は1/fといわれる揺らぎによってリラクゼーションが取りやすい環境を提供できると考えている。つまり加齢によって減少する α 波をスウィングスライド機構で補うことが可能になれば、高齢者にとって有意義な結果になると想定している。

2. 連携事業の相手方

株式会社 クオリ

所在地：愛知県 安城市

3. 連携期間（研究期間）

令和6年4月～令和8年3月

4. 検証方法

シルバー人材センターに登録している健常高齢者を対象に通常の椅子とスウィングスライド機構の椅子での脳波比較を行う。

5. 効果等

施設に入所している高齢者の1日を調査した研究では、日中の大半を椅子で過ごしているとの報告が見られている。この研究結果を参考にすると1日の大半を過ごす椅子を活用し、加齢によって減少する α 波を補い、高齢者にリラクゼーションを提供することは、意義があるものと考えられる。さらに、ストレスは認知症進行の一要因と言われており、高齢者にとってリラクゼーションを提供することは重要なことであると考えている。

6. 学会発表

・2020年 認知症高齢者へ快適な座りを提供する新たな椅子の開発 日本認知症ケア学会